

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

現金	普通預金	当座預金	受取手形	売掛金
未収入金	前払金	手形貸付金	土地	支払手形
買掛金	未払金	前受金	手形借入金	所得税預り金
社会保険料預り金	資本金	売上	受取利息	仕入
給料	通信費	旅費交通費	租税公課	支払利息

- 取引銀行より¥210,000を借り入れ、同額の約束手形を振り出し、利息¥6,300を差し引かれた残額が当座預金口座に振り込まれた。
- 領収証の発行や約束手形の振出しに用いる収入印紙¥15,750と郵便切手¥7,000をNS郵便局で購入し、代金は現金で支払った。
- 仕入先岐阜商店に注文していた商品¥140,000が到着し、代金のうち20%は手付金としてあらかじめ支払済みであるため相殺し、残額は小切手を振り出して支払った。
- 従業員に対する給料の支払いにあたり、給料総額¥700,000のうち、所得税の源泉徴収額¥25,200と本人負担の社会保険料¥39,900を差し引き、残額を普通預金口座から従業員の預金口座へ振り替えて支給した。
- 先月末に¥490,000の土地を¥595,000で栃木商店に売却していたが、本日、売却代金の全額が栃木商店より当店の普通預金口座に振り込まれた。

第2問 (10点)

次の[資料]にもとづいて、備品勘定と備品減価償却累計額勘定の空欄①から⑤にあてはまる適切な金額を答案用紙に記入しなさい。定額法にもとづき減価償却が行われており、減価償却費は月割計算によって計上する。

なお、備品Aは当期中に売却(売却価額¥56,000)しており、売却時に減価償却費を計上している。また、当店の決算日は毎年12月31日である。

[資料]

	取得日	取得原価	耐用年数	残存価額
備品A	平成27年1月1日	¥210,000	5年	ゼロ
備品B	平成29年1月1日	¥378,000	6年	ゼロ
備品C	平成30年7月1日	¥231,000	5年	ゼロ

日付			摘要	借方	日付			摘要	貸方
年	月	日			年	月	日		
30	1	1	前期繰越	(①)	30	6	30	諸口	()
	7	1	普通預金	()		12	31	次期繰越	(②)
				()					()
31	1	1	前期繰越	()					

日付			摘要	借方	日付			摘要	貸方
年	月	日			年	月	日		
30	6	30	備品	(③)	30	1	1	前期繰越	189,000
	12	31	次期繰越	(④)		12	31	減価償却費	(⑤)
				()					()
					31	1	1	前期繰越	()

第3問 (30点)

当店は、日々の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票の3種類の伝票に記入し、これを1日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から総勘定元帳に転記している。当店の平成30年6月1日の取引について作成された次の各伝票(略式)にもとづいて、答案用紙の(1)仕訳日計表、(2)総勘定元帳、(3)仕入先元帳への記入を完成しなさい。

入金伝票	No. 101
売掛金(茨城商店)	89,600

入金伝票	No. 102
受取手形	134,400

入金伝票	No. 103
借入金	336,000

入金伝票	No. 104
前受金	56,000

出金伝票	No. 201
買掛金(千葉商店)	85,120

出金伝票	No. 202
支払手形	100,800

出金伝票	No. 203
買掛金(東京商店)	95,200

出金伝票	No. 204
消耗品費	8,960

振替伝票	No. 301
仕入	145,600
買掛金(千葉商店)	145,600

振替伝票	No. 302
仕入	201,600
買掛金(東京商店)	201,600

振替伝票	No. 303
受取手形	72,800
売掛金(埼玉商店)	72,800

振替伝票	No. 304
未収入金	56,000
固定資産売却損	6,720
土地	62,720

振替伝票	No. 305
売掛金(茨城商店)	358,400
売上	358,400

振替伝票	No. 306
買掛金(千葉商店)	56,000
支払手形	56,000

振替伝票	No. 307
買掛金(東京商店)	80,640
支払手形	80,640

振替伝票	No. 308
売掛金(埼玉商店)	268,800
売上	268,800

第4問 (10点)

当店（当期は平成30年1月1日から12月31日まで）における手数料の支払いが生じた取引および決算整理事項にもとづいて、答案用紙の支払手数料勘定と前払手数料勘定に必要な記入をして締め切りなさい。なお、勘定記入にあたっては、日付、摘要および金額を（ ）内に取り引日順に記入すること。ただし、摘要欄に記入する語句は【語群】から最も適当と思われるものを選び、正確に記入すること。

4月1日 銀行で当座預金口座を開設し、¥5,600,000を普通預金口座からの振り替えにより当座預金口座に入金した。また、小切手帳の交付を受け、手数料として¥2,000を現金で支払った。

10月1日 店舗を建てる目的で土地¥1,680,000を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、仲介手数料¥22,400は不動産会社に現金で支払った。

11月1日 向こう6か月分の販売手数料¥201,600（1か月当たり¥33,600）を小切手を振り出して支払い、その全額を支払手数料勘定で処理した。

12月31日 11月1日に支払った手数料のうち未経過分を月割計算により計上する。

【語群】

現	金	普	通	預	金	当	座	預	金	前	払	手	数	料	建	物
土	地	支	払	手	数	料	諸	口	次	期	繰	越	損	益		

第5問 (30点)

会計期間を1月1日から12月31日までとする静岡商店の平成30年度末における、次の【決算日に判明した事項】および【決算整理事項】にもとづいて、精算表を完成しなさい。

【決算日に判明した事項】

1. 仮受金は、決算直前に得意先より受け入れていた名目不明な入金であったが、¥35,000については得意先山梨商店に対する売掛金を回収したものであり、残額は得意先長野商店から受領した商品代金の手付金であることが判明した。
2. 仮払金は、当期に備品を発注したさいに購入代金の一部を頭金として支払ったものである。なお、この備品（購入代価：¥124,600、引取運賃：¥8,400）は平成30年10月1日の引渡しの直後から使用を始めているが、代金の残額を平成31年1月に支払うこととなっているため、未記帳となっている。
3. 保有する得意先振出しの約束手形¥38,500が支払期日をむかえ、当座預金口座に入金済みであったが未記帳であった。

【決算整理事項】

1. 現金の実際有高を確認するために金庫を実査したところ、次のものが保管されていた。なお、現金以外のものも含まれているが正しく処理されている。よって、現金過不足額を雑損または雑益として処理する。

紙 幣 ・ 硬 貨 ¥229,250

他店振出しの小切手 ¥ 20,300

得意先振出しの約束手形 ¥ 21,700

2. 受取手形および売掛金の期末残高に対して差額補充法により3%の貸倒引当金を設定する。
3. 期末商品の単価は@¥560、数量は500個であった。売上原価は、「売上原価」の行で計算する。
4. 建物および備品については定額法により減価償却を行う。

建 物 耐用年数20年 残存価額：取得原価の10%

備 品 耐用年数5年 残存価額：ゼロ

なお、新備品については、上記と同じ条件で減価償却費の計算を行うが、月割計算による。

5. 定期預金は、当期の8月7日に1年満期（利率年2.5%）で預け入れたものである。すでに経過した146日分の利息を見越し計上する。なお、利息は1年を365日とする日割計算によること。
6. 保険料は、当期の9月1日に1年分を前払いしたものである。
7. 受取家賃は、所有する建物の一部賃貸によるもので、毎回同額を3月1日と9月1日に向こう半年分として受け取っている。